

新校長決意を語る

校長 鈴木貞雄



みなさまのご健勝と日々のご活躍を各方面から伺い喜ばしく思います。

平成二十一年四月より校長職を努めております。今回は学校の近況報告を兼ねて挨拶をさせていただきます。

日頃、本校教育活動発展のために多大なるご協力・ご支援を賜り心より厚くお礼申し上げます。特に、昨年の開校六十周年記念行事(式典・祝賀会 平成二十年十月十八日)には校旗の新調や六十周年記念誌の発刊などにご援助賜り誠に有り難うございました。また、多くの会員のみなさまからご寄付を頂き重ねて厚く御礼申し上げます。盛大に記念行事も終了致しましたことを報告させていただきます。この節目にあたり、平成十七年度より教育施設・環境整備事業を推進し、本館の耐震補強工事、トイレの全面改修やグラウンド・テニスコートの人

同窓新報

題字・故 上野慧賢先生

発行所
駒澤大学高等学校

同窓会
正会員数 25,406名

東京都世田谷区上用賀1丁目

〒158-8577 TEL.3700-6131(代)

FAX.3708-7291

振替口座 0018-6-61881

http://www.komazawa.net

E-mail: dosokai@komazawa.net

工芝敷設工事、音楽室・図書室の移転などを行いました。

今年度は別館の塗装工事や照明器具の光感センサーの取り付け、高効率空調機への更新、小体育館の水銀灯から省エネ型照明機器への変更なども行いすばらしい学習環境が整いました。この間、エネルギー消費量と二酸化炭素の削減に取り組む、その結果、地球環境にやさしい学校づくりが評価され、世田谷区より「平成二十一年度世田谷区環境表彰・省エネ部門」を受賞致しました。「緑と水の環境共生都市せたがや」の実現に向けたことが表彰対象になりました。また、本校の環境づくりは「人が環境をつくり、環境が人を育てる」をテーマに環境新聞を校内に掲示し、ゴミの分別などから環境作りを身近なところから意識できるよう呼びかけています。ご承知の通り、長野県に学校林を創立し植林活動を通して自然環境問題への意識も高めています。学習活動にいろいろとお力添えをいただき深く感謝申し上げます。

改善を図るという重責を担うこととなりました。みなさまと教職員・生徒の厚いご協力と自己責任を果たすためのご助力を期待して任務にあたる決意をいたしました。日々変わる社会情勢に学校として取り組まなければならない課題は多く苦難や困難な問題にも立ち向かわなければなりません。学校教育の情熱意欲を高め、教育目標達成のために邁進してまいります。

人生の中で多感で変化に富み、可能性を秘めた高校生を育てておりますことはご存知のとおりであります。この時期に培われた生き方が将来の人間性を決めると言えます。建学の精神である「行学一如」の修学そのものが生きることの大切さを学んでほしいと願い、宗教教育を通して基礎・基本を重視し、「豊かな人間性を身に付けた生徒」を育てています。近年、言われている「しつけ教育」もその一つです。保護者と学校の役割は異なると思いますが、「協調性」や「社会ルール」などの社会的対人行動を身につけさせたい。そのためには教科指導はもちろん、部活動、地域やボランティア活動など、多くの体験をとおり、切磋琢磨し「あなたらしい」ことがあたまに育ち、誠実な精神力を鍛えたい。また「英知の涵養」を計り、「自主・自立精神の確立」を大きな柱として、知識・技能の習得と思考力・判断力・表現力

などバランスある生徒・次世代の社会を築く若者にふさわしい人間力ある駒大高校生を育成します。

近年、進路選択をめぐる環境が大きく変化し、職業意識や勤労意識の希薄化がみられます。付属高校ですのにより強いのかもしれません。そこで、自らの進路を自らが選ぶ能力を育てるために、一人一人の勤労観や職業観の育成のためキャリア教育(学習)の充実を図り、将来を見据えた学習を行っています。具体的には卒業生や父母などによる職業紹介や職業意識を生徒に伝えていただいております。是非、ご来校いただき在校生に職業意識を植え付けていただきたく思います。また、励ましの言葉を頂ければと考えています。今年度は作業療法士による「リハビリテーションと作業療法士の仕事」と題してお話をいただき、生徒達は喜んでおりました。

最後になりましたが、駒澤大学高等学校のホームページを充実させ、多くの情報を発信しております。日々の学校の様子やカリキュラム・部活動などの結果をどうぞご覧下さい。

生徒と教員が関わる学校を築きたく努力致しております。そのためにはみなさまのご尽力が必要です。同窓会の益々のご発展をお祈り申し上げます。今後ともご指導・ご鞭撻を賜りますようお願い致します。

特集予告

駒澤大学高等学校開校六十周年記念式典・記念祝賀会が、平成二十年十月十八日、本校で盛大に挙行されたことはまだ忘れられない行事でした。

同窓会も平成二十年五月二十三日(土)ハイアットリージェンシー東京において同窓会役員総会が盛大に行われました。そして来る平成二十三年(式典日未定)同窓会六十周年記念式典を迎えるべく、今年度準備委員会を立ち上げる予定です。紙面をお借りして同窓新報でも十月に特集を組み発行していきたいと考えております。投稿の形式は、四〇〇字詰原稿用紙三枚位に納めていただき事務局までお願いいたします。会員の皆様の投稿をお待ちします。心に残る記念式典となるよう会場にてお待ちしております。



平成17年・創立55周年記念総会

同窓新報「第四十四号」の発行が大変、遅れました。関係各位、同窓生の皆様方に深くおわび申し上げます。四十五号は今年十月に、発行の予定です。御協力をお願い申し上げます。

会員だより

わの広場

一期卓球部員 母校に集合

一期 吉 富 勝 一



先日同窓会一期役員原君と同期生の消息を話し合っている内に卓球部員の話になり当時の卓球部対外試合の記録が一期生卒業時発行された「図書部報」に残っている事を知り早速発行責任者の鳩員君に六十年前の原本を探してもらい、その記録のコピーを入手した。

それには昭和二十三年度六回、二十四年度六回、二十五年度五回、近隣の高校に出向いての試合や世田谷区全体の大会結果が詳細記録されていた。それと呼んでいるうちに今年七十七才喜寿を迎えた記念に母校現役の卓球部の練習に参加させて欲しいと思った。一期と六十期の打ち合いの希望を教頭先生に申し出て了解を頂き卓球部顧問の安達先生と連絡を取り日時も決まった。

母校訪問は秋晴れの二十一年十月三日(土) 応援見学の一期卓球部員、岐阜、養口、佐藤(銀)、写真の記録を頼んだ原君と私の五人が校門をくぐった。

安達先生の案内で体育館に

入る。卓球台が五台並び大学のコーチ陣が一二年生を指導しすばらしいロングラリーを続けていた。

同行の元卓球部員は見学用に設けて頂いた椅子に座り恵まれた環境で練習をしている姿を見ながら各自六十年前一台の卓球台を先を争って奪い合った日を思い出していた。

私は若い力と打ち合って「精気」を受け取りたいと念じていたので即刻練習に合流させてもらった。今年(二十一年春)入学した新入部員も相当な腕前に達していた。限られた時間内に一球でも多くラリーを続けようと壁際に転がったボールを走って拾い打ち続けた。汗でメガネが曇り次第に息が上がる。

私が二つのクラブで月に八回の練習で使用しているラージボールと違い普通硬式ボールは打球の速さが一・五倍も速い。打ち合う白球をしっかりと見ながら懸命に応戦する、前もって「老人だからと手加減せず打ち込んで欲しい」と

伝えて置いたので対戦相手は力一杯打ち込んでくる。

七十七才対十七才校歌の一節にある「みなぎる青春」そのものだ。母校生徒と対戦する夢を果たせた嬉しさで胸が熱くなった。文字通り「一期一会」だった。

卓球部員諸君も礼儀正しく挨拶を交わし対応がさすがに良かった。

練習後教室で顧問の安達先生の司会で、元顧問で先年退職された横山先生も加わり部員の紹介があり、主に一期の卓球環境を話した。初めて卓球台が一台届いた時の喜び、粗悪品のボールが多かった、ボールの銘柄はYSPが主流で単価は一球二十五円、部室はなかった、一期の部員は十数名ですすでに内四人が他界しているなど話した。その席で一期の対抗試合の結果を記録したプリントを渡し本日のお礼に試合用ボールを贈って解散した。

駒大高卓球部の栄光祈ってペンを置きます。



◆同窓会の活動◆

◎クラス会/クラブOB・OG会の助成

卒業生の交流・親睦を目的にクラス会やクラブOB・OG会または同期会などを開催する際の通信費を始めとする必要経費などを援助しております。助成金は金一万円を交付いたします。

会の終了後には「開催報告書」を提出していただき、ホームページや同窓新報に掲載させていただいております。

申請に関する詳細はホームページから、または事務局までお問い合わせ下さい。

◎クラブ助成

校友会に所属するあらゆる部活動に対し、部費等ではまかなえないものを中心に援助をしております。予算を年間100万円とし、申請のあった部活動の中から役員会の審議を経て助成します。6月と12月の年間2回、助成の申請をすることが出来ます。

昨年度は剣道部に胴七個を贈呈致しました。過去の助成内容はホームページをご覧ください。

また、申請の際には「見積書」「パンフレット」等を添えて申請して下さい。

◎文化講演会

主に在校生に向けて、講演者を招き文化祭初日に講演会を行っています。特に卒業生を中心に文化的活躍をしている人物にスポットをあて講演をしていただいております。しかし、近年は適任者不在のため中止を余儀なくされてきました。

これからはもう少し幅を広げ、生徒のニーズにあった講演者を探していきたいと考えています。また、学校が主催する講演会の補助等も考えています。

予算金額は100万円を用意しています。

◎特別会員(教職員)の永年勤続表彰・退職慰労金の贈呈

同窓会において、教職員は「特別会員」とさせていただいております。特別会員に対して、永年勤続(40年、30年、20年、10年)の表彰と記念品の贈呈を行っております。また、特別会員ご退職の際には勤務年数に合わせた慰労金の贈呈もおこなっております。

以上、ご理解とご協力を宜しくお願い致します。

同窓会 事務局(47期生/加藤寛隆)

同窓会のホームページをリニューアルしました！ New URL <http://komakou-dousoukai.net/>



同窓会のホームページが新しいスタートを切りました。

同窓生が使いやすく、憩いの場となるように作っていきたいと思います。

まずは是非ご覧下さい。

発展的なご意見・ご要望をお待ちしております。

師弟同行

一期生の原風景
一期 嶋 貝 清太郎



六十年前通か彼方に行った年月。その時、私は確かに高校生であった。昭和二十三年四月の学制改革によって、新制高校が発足し、わが母校「駒澤大学高等学校」も開校した。この年、私は一期生として、百二十余名の仲間と共に入学した。

戦争が終わって三年。社会は貧しく、混沌としていた。一、二年生の時、米、ソの対立から、「鉄のカーテン」という言葉が流布した。経済不況は深刻化し、企業の倒産や労働者の首切りなど騒然とした雰囲気だった。三年生の六月には朝鮮戦争が勃発し、将来への不安をかきたてた。「これで、受験勉強も何もかもおしまいだ！」しかし、朝鮮戦争は日本の破綻どころか、逆に特需景気を生み、経済は次第に好況に転じて行った。

その頃、東京の西郊といえる駒沢。「玉電」と呼ばれた路面電車がガタコトと走り、住宅地区の一角に駒澤大学があった。高校の校舎は大学の校門を入って直ぐ右、キャンパス内の既存の木造校舎を利用したものだった。大学のモダンな講堂と重厚な図書館に挟まれ、誰が見ても、大学の

一部と思われた。

先生方は数名の高校専任の研究室からやってきて、教え終るとまた、戻っていった。先生方の多くは大学教育が本業。授業や生徒指導の在りようはどこか大学風で、生徒は授業中の教室からのエスケープを難なく成功させたりしていた。

このような人的な教育環境は私達の成長発達にどのような意味を持ったのだろうか。私は後に、東京教育大学（現筑波大学）で地理学を専攻したが、それは、多分に、恩師井関弘太郎先生との出会いや影響によるものと思っている。先生は当時「人文地理」と呼ばれた科目を担当されたが、自分の研究テーマに係わる話をよくされた。時には、学会発表の予行演習だろうとか、発表要旨を書いた模造紙を張って、講義をされた。私は、それを興味深く聞き、学問や研究の片鱗に触れた思いだった。

私たち一期生の特権は、部活動も自由に創部できたことだろう。私は「地歴研究部」を創り、井関先生の熱心な指導を受けた。大学の研究室は勿論、時には、練馬区のお宅にまで伺った。先生は当時、松戸市の新田集落を研究しており、現地で「フィールドワーク」の方法を直接実地指導していただいた。師弟同行。指導内容は高校レベルを遙かに超えたものだったと思う。こうして、私は地理学への興味、関心を膨らませていった。その成果は「新田集落の研究―千葉県松戸市馬橋」となった。卒業の折、手にした

図書館報にその概要がのっている。調査をしたのは「九郎左衛門新田」と言う集落。農家を一軒一軒回って聞き取り調査をした。通婚圏などという切り込んだ調査も行った。こうして私は「社会地理」という専門誌の熱心な読者にもなった。

井関先生は私達が卒業して数年後に名古屋大学に移られた。教授を退かれてからも名大名誉教授として、名大を中心とした地理学会の会長を勤め、沖積平野等の研究分野に関する多くの優れた研究実績を残され、天寿を全うされた。地学を教えていただいた谷津榮寿先生にもいろいろと目をかけていただいた。先生も大学の研究室からやってくる先生の一人で、陸水学の分野の研究をされていた。ご縁と

言うのは不思議なもので、大学に入って、私は先生の後輩ということになった。筑波大学の教授をされ、後に、上越教育大学に移られた。先生は九十歳を超えただろうが、まだまだかくしゃくとして研究を続けている。五年ほど前になるだろうか、松戸市の自宅に同期生の吉富君とお尋ねした。吉富君は高校時代、先生の研究に必要な多摩川の水の運搬役を果たしていた。先生は九十九歳を超えただろうが、まだまだかくしゃくとして研究を続けている。五年ほど前になるだろうか、松戸市の自宅に同期生の吉富君とお尋ねした。吉富君は高校時代、先生の研究に必要な多摩川の水の運搬役を果たしていた。

志望校である国立大学を落とした。そして、翌年を期して、就職活動に入った。今も昔も同じだとつくづく思うが、私は二十数社に足を運び、不採用通知が束になった。苦悩と不安のどん底に落ち込んだ。就職できたのは六月、二ヶ月が経過していた。

私は、就職の報告とともに、この体験と苦悩を親しみ易い佐藤道也先生に書き送った。あとに掲げる文章は先生からいただいた返信の抜粋である。私は先生の手紙を何度も読み、鼓舞され、困難を乗り越えた。忘れることのできない思い出である。暖かい先生の言葉は、高校教育界で生きることとなった私にとって、教育観や生徒観を打ち立てるための光明となり、指針となった。

今から十七年前、高校長を定年退職した年。私は先生の故郷酒田市を訪ねた。今は亡き先生の面影を偲びながら、過ぎ去った青春の日に思いを馳せたのである。『四月以来、ずいぶん悩んでおられたようですね。物事を良心的に考えるあなたには現実社会の混乱振りが目にうつり、堪えきれなかったのでしょうか。理想と現実のずれ、矛盾、最後におちいる懷疑、苦悩、自信の喪失などにあなたのこうした不幸は人生への旅立ちに当たり、出食わさなければならぬ尊い体験だともいえます。深く物事を考えない人はそのまま当然のこととして通り抜けてしまふのですが、それでは決して深みのある人生観を持つ人にはなれないと思います。あなたが今、マイナスの苦

悩にさいなまれている事はむしろあなたの将来の人生を

多し豊かなものしてくれると思います。苦悩が私たちに与えて尊いのはそれが人生における知恵をつけてくれる契機となる点なのです。ですから、あなたが今、途方に迷っているその暗いものをただ徒に嘆き、絶望するだけというのではなく、ひたすら注意深く、そして冷静に見つめていってほしいのです。世の中のことの多くは私たちが予期しているものとは矛盾しているものなのです。解決を得ようと思えばいいかもしれません。懷疑や苦しみは次から次へと押し寄せてきますが、それを否定するだけでなく素直に受け入れ、注意深く、対処していったらいいのです……』

先生の手紙は更に、当為（理想）と現実の問題、仕事への真剣な取り組みなどに言及している。六十年前、私は先生の手紙を読み返しては、青春の日々を力強く生きた。疾風怒濤の青年期。教師や学校に求められるものはなにか。「師弟同行」の言葉が頭をよぎった。

駒大高校も六十余年の年輪を重ねた。草創期、大学のキャンパス内にあった母校を知る者は少ないだろう。往時茫々。ただ、青春の喜びと悲しみ、恩師の愛がそこにある。

プロフィール

千葉県立流山東高校校長、千葉県立船橋東高校校長、他歴任



フットサル日本代表

48期F組 小宮山 友 祐
1979年12月22日生 東京出身



駒沢大学→FC FUN。普段は高校の教諭をしながら、ファイルフォックスの練習に励み、日本代表候補としての合宿にも臨むという多忙な生活をこなしている。ファイルフォックスで2002 第 7 回全日本選手権優勝。2004 年度は関東リーグ、第 10 回全日本選手権大会、第 5 回 FUTSAL 地域チャンピオンズリーグ優勝を果たし、3 冠を成し遂げた。

(フットサルタイムズより)

学研M文庫より本を出版

日本史の流れを大きく変えた数々の戦いにおいて、名将たちはいかなる戦略と戦術をもって勝利を手中に収めたのか？

新説・姉川合戦、逆襲！山崎決戦、島津九州制覇戦、小牧・長久手大陣地戦、逆転！摺上原、秀吉襲来！小田原合戦、決戦！大坂の陣と、七つの戦いを追ひ、図版史料とともに怒濤の戦場を再現する。雑誌『歴史群像』掲載の記事を大幅加筆、再編集した文庫オリジナル。

(学研文庫より)



吹奏楽部

全日本吹奏楽コンクール金賞 第十一回全日本高等学校吹奏楽大会連盟会長賞

ダブル受賞

本年度、吹奏楽部は全日本吹奏楽コンクール全国大会金賞（十月二十五日・於普門館）、そして第十一回全日本高等学校吹奏楽大会連盟会長賞（十一月十四・十五日・パシフィコ横浜国立大ホール）のダブル受賞をした。受賞の思いを顧問の吉野先生は次のように語ってくれた。

♪全日本吹奏楽コンクールと全日本高等学校吹奏楽大会とのダブル受賞となったが、気持ちをお聴かせ下さい。

生徒が頑張った。吹奏楽部は年末のコンサートで三年生が引退となる。今年は例年より多い三十一名が引退して牽引力が弱くなった。また、新チームでの三月合宿の時は部員の志気が低くなり、ミーティングの時間が多くなり予定していたプログラムができなかった。この時点で全国大会出場は難しいと思った。ただ、大きな失敗が反省となり、日々の積み重ねで金賞を手にしたと思う。

♪楽しむための音楽とコンサート出場のための音楽との違いはありますか。

違いはない。演奏を披露した時に、子供からお年寄りまで、聴いている人が喜んで下さるような音楽を奏でたい。音楽を通じて社会貢献したいと思っている。ただ、コンクールは十二分間以内で課題曲と自由曲の二曲を披露しなければならぬ。共に完成度の

高い演奏でなければならぬ。課題曲は、チームの雰囲気合った、明るく爽やかなマーチを選び、自由曲はソリストをアピールできるもの、チームの事情に合ったものという観点で選んだ。課題曲より演奏時間を多く割き、皆さんに楽しんでもらいたいと思っていた。

♪演奏で生徒の個性を充分に引き出せるような秘策は何かありますか。

私は生徒と同じタイミングにステージに入るようにしている。生徒が楽器の準備を終えてからステージに立つ人もいるが、私はセッティングの最中に「今日は、おまえの保護者は来ているか」などと声を掛け、生徒の緊張をほぐすとともに自身の心を落ち着かせるためにも一緒に入る。驚いたことに、全国大会時の生徒の顔は頼もしいと感じた。また気持ちの強さも感じられた。新チーム当初は都大会までと思っていたが、幾度もの合宿と日々の練習の積み重ねが生徒を大きく成長させて、このような賞を得たのだと思っている。部訓である「錬磨は栄光への王道なり」を体現してくれたと思っている。

♪ふだん生徒に気をつけなければならぬこととして伝えていることは何ですか。
生徒には、思いやり・相手の立場に立つて考えることを

教えている。演奏時には各楽器の役割があり、今ここで目立たなければならぬ楽器と陰にまわって主楽器をささえなければならぬ楽器がある。立場をわきまえていないと楽器同士がケンカをする。パートを越えたアンサンブルが必要となる。そのために普段からチームワークの意識を持つことの大切さを話している。校内清掃や地域清掃もその一環である。部員全員で清掃という一つのことを行い、しかも隅々まで綺麗にしようという妥協しない心が美しい音楽につながる。また「目に見えるものから綺麗にしようとする心が、目に見えない音楽を綺麗にしようとする心につながる。ゴミが落ちていても平気でいられるような感性ではどうしようもない。」ということも話している。

全国大会金賞受賞以前に、世田谷区シルバー人材センター三十周年式典に招待され、世田谷区民会館六十五歳以上の方、五百人余りの前で演奏したそうだが、受賞後、その演奏を聴いた人が金賞受賞の新聞記事を見て本校へ受賞のお祝いに駆けつけ、涙を流して受賞を喜び、また「日本の将来は明るい」と話したそうだが、吉野先生が、この話を私にした時、「やりがいがあった」とつぶやいた。
この方がおっしゃったことは、吉野先生が日頃生徒に伝えてきたことの現れだと感じた。「音楽を通じて社会貢献したい」という思いが「日本の将来は明るい」として応えられたと。今後の吹奏楽部の活動に期待させられる。

坐禅会のお知らせ

毎月第2土曜日に本校坐禅堂を開放し、月例参禅会を行っています。

学生時代を思い出しながら静かな安らぎの時間を過ごしてみませんか？

予約や参加費は一切不要です。

午前11時までに本校玄関ロビーまでお越し下さい。

《日程》4/10、5/8、6/12、7/10、9/11、10/9、11/13、12/11、1/8、2/12、3/12

《時間》11時～12時

詳しくは駒澤大学高等学校 宗教科 加藤寛隆まで



黒姫高原 絆の森(学校林)・癒しの森ツアー紹介

～駒澤大学高等学校：環境教育への挑戦の現場を訪ねて～
緑林教育プロジェクト 二瓶 要功・長谷川 宏一

本校では、長野県の「森の里親事業」に学校団体として初めて参加し、学校林を持ちました。

- ① 森を育て、再生していく事業に参加し社会に貢献する
- ② この事業を、林間学校やツアーを通じて生徒に体験させ、またこの森の成長を知らせることで、「自然環境に対する関心が高い生徒」「森や自然に親しむ心をもった生徒」を育成する

という二つがこの目的であります。最近では東京都立北園高校が学校単位で同じような体験を始め、注目を集めております（下図；日本教育新聞記事より）

本校のプロジェクトは平成22年度で5年目を迎え、林間学校を通して計100本以上の植樹が行われ、外来種の伐倒、間伐などが生徒も参加する形で行われてきました。

長野県と連携、特色化図る



※日本教育新聞 2010年1月18日の記事より

この試みを生徒や保護者の方々を始め学校関係者に広く知っていただくため、本校では秋に保護者の方々やOBの方々の参加を募ってツアーを行っています。以下に昨年度行った企画内容を示させていただきます。平成22年度においてもこのようなツアーを企画する予定ですので、ぜひふるってご参加ください。

なお、この企画は、実際に林間学校で生徒が体験しているプログラムと同じ流れで行われます。駒澤大学高等学校の挑戦を肌で感じていただくことを趣旨としています。

※昨年度の実施した例

期日 10月11日（日）～12日（月）
宿泊 黒姫高原 ロッジしらかば（癒しの森の宿に指定されています）

長野県上水内郡信濃町黒姫高原2015
tel:026-255-3221 <http://www.janis.or.jp/users/kouriki/>
費用 20000円

（宿泊費；8000円・インストラクター代；2000円・苗木代；1000円・交通費その他；9000円）

※学校からバスで出発し、学校にて解散します）

旅程 1日目
9:00 学校出発 練馬IC 関越道
13:00 学校林（絆の森）到着 昼食（たけのこ汁・癒しの森弁当）
・学校林説明・植樹体験・くい打ち（生徒が林間学校で植えた木に支えの杭を打ちます）
16:00 宿泊地へ移動、到着後、休憩
18:30 夕食
20:00 癒しの森・森林セラピー（宿のご主人：高力一浩氏より）
高力氏は、本年林間学校での講演者でもあり、森林セラピーの専門家です、翌日森を案内してくれます。
21:00～ 自由時間（可能ならナイトウォークを実施します）

旅程 2日目
8:00 朝食
9:30 黒姫山、癒しの森散策へ出発
・水の源流をもとめて ・山の幸を食す（キノコなど）
・森林セラピー（信州自然大学プログラム）
12:30 昼食：霧下そば（信州そば）
13:30 現地出発
18:00 学校 着予定
信濃町は現在、国から「癒しの森」として指定され、各企業がストレス対策として森林セラピーを行っています。本企画の2日目の予定はそのプログラムの一部でもあります。



一人一本自分の樹を植えます

八転七起

新型インフルエンザが今大流行しています。電車に乗っても、近くで咳の音がすると心の中でその方向に振り向き、人の集まるところに向うく用事があればポケットにマスクをしまうこの頃です。

この秋楽しみにしていた『駒大高校祭』がこのため中止になりました。残念なことです。防ぐ方法も戦う方法もあれば整える方法もあると思いますが、その判断は苦渋を伴ったと思います。

あの痛い『ワクチン接種』子供の頃からこの時期お世話になりました。痛いことはよく覚えています。『うがい・手洗い・励行』の貼り紙も昔も今も変わりなく目にします。子供の『茶うがい』をして、こうするんだと教えてくれます。かわいいものです。

今、鼻の穴に一吹きするだけで、鼻の粘膜に免疫ができウイルスの侵入を防ぐ『経鼻ワクチン』の開発が進んでいると聞いています。あの痛い、しかも面の顔が見れない時代がすぐそこまで来ています。会員の皆さん、『健康が一番』ですよ。（あらい）

どこ見ても
マスクが動く
朝の駅

アイ美人
得な半分
白マスク

編集局より

会員の皆様
投稿をお待ち
します